

準決勝での Honeoye 戦を完璧な内容で勝ち進んだ慶應はもう一つの準決勝が行われている間の短い時間、体を休め決勝に備えました。途中サンダーストームにより準決勝が中断したため決勝戦開始時間が遅れたものの、予定通り同日に行われました。



対戦相手は昨年の覇者 Fort Plain を下し決勝へ進んだ Thomas Edison。

慶應後攻で始まった試合は先発三好君の好投で出足を3人で抑えます。スケジュールの関係で準決勝後すぐ決勝が行われたにもかかわらず相手チームピッチャーも好投し両者1,2回は無得点。

試合が動いたのは3回裏慶應の攻撃。先頭打者の鳥山君がライト前ヒットで出塁すると、続く織立君もセンタ前ヒットで1,2塁。打順が1番に戻り北島君がレフト前ヒットでノーアウト満塁とします。2番松田君の打席で焦りが見えるピッチャーは暴投し、その間に3塁ランナー鳥山君がホームインで先制。尚もランナー2,3塁で松田君がキッチリとレフト犠牲フライを上げ2点目。続く3番中鉢君、4番加藤君はフォアボールでまたも満塁のチャンス。ここでピッチャー交代。5番の竹内君が右中間を破るタイムリーツーベースで走者一掃5-0とします。ランナー2塁で6番吉原君がセンターフライでツーアウトになるも続く7番三好君がフォアボールで1,2塁。打者一巡し鳥山君のあたりはセカンドゴロ・・・しかしこれがエラーとなり1点追加。続く織立君がフォアボールでまたも満塁とすると、相手ベンチが慌しくなりあっさり2番手のピッチャーを交代。ツーアウト満塁で北島君がショートゴロとなりようやくチェンジ。この回一挙6点とし、慶應が大きくリード。

4回表攻撃が長くなりすぎたせいか、三好君は先頭打者にライトオーバーのツーベースを打たれます。しかしそのあと2三振、サードゴロでキッチリ後続を断ちこの回を切り抜けます。

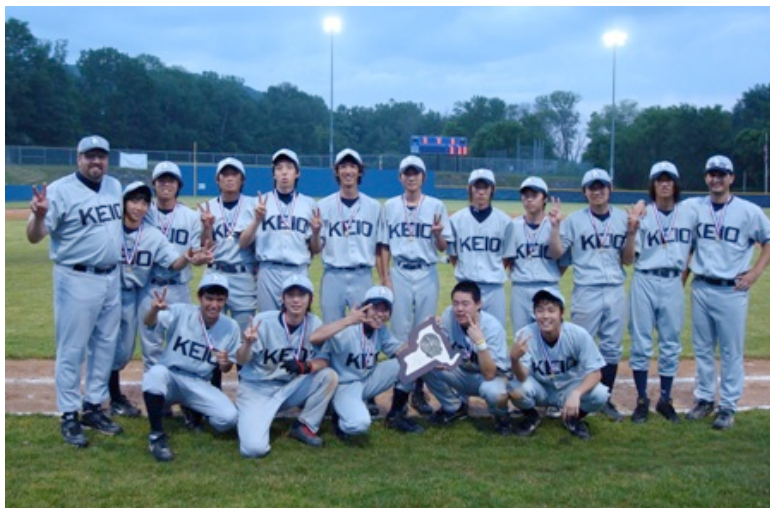
その裏慶應の攻撃はツーアウトから加藤君がフォアボールで出塁。続く竹内君がセンター前ヒットを打つも2塁でタッチアウトとなってしまいます。

5回表 Thomas Edison がようやく動き出します。先頭打者が三遊間に落ちるフライでヒットとなると、続くセカンドゴロがエラーで1,2塁。そしてレフト前ヒットと立て続けに打たれ慶應はこの試合初めてノーアウト満塁のピンチをむかえます。続く打者がセカンドゴロでアウトとなるも1点、その次の打者をショートゴロとしますがサードアウトを狙った球がランナーに当たりセーフ。その間に2点目を失います。ランナー2,3塁で次の2番打者がフォアボールでワンアウト満塁。3番打者をショートゴロとしキッチリアウトを取りますがその間に3点目で6-3とされ点差が徐々に短くなってき



ます。しかし4番打者を三振とし、なんとか3失点でピンチを奪取。

続く5回裏追加点が欲しい慶應はこの回代わった4番手のピッチャーに対し、先頭6番吉原君がフォアボールを選び出塁。7番三好君のあたりはショートへの高いバウンドで両者セーフ、1,3塁とします。そして次の鳥山君の打席が疑惑のプレー。スクイズをした際ボールがワンバウンドしファールと思いきや打者アウト。そしてホームに走ってきていた3塁ランナーの吉原君がタッチアウトで、ツーアウト。コーチの猛抗議で試合が中断し審判が集まり協議。しかし判定は変わらず両者アウトとなります。結局続く9番織立君がピッチャーゴロとなり、この回の追加点のチャンスを逃します。



試合のムードが悪くなり流れが変わったかに思われましたが6回表を2三振とセンターフライで抑え乗り切ります。その裏北島君と中鉢君の安打で2,3塁としますが得点にはいたらず、いよいよ最終回へ。

7回表相手チーム最後の攻撃。先頭打者に右中間を抜かれツーベースを与えるも続く9番打者をセカンドゴロ。1番打者もサードゴロとしツーアウトで優勝まであと一人の王手。2番打者をこの回たくさんの三振を築いてきた得意の外角低めのスライダーで三振にしとめゲームセ

ット！ 昨年のリベンジを見事果たし、ついに念願のState優勝！！

野球部のために退寮後にご支援くださいました保護者の方々、生徒達、教職員の皆さん、その他Keioコミュニティの皆様、本当にありがとうございました。

結果このような偉業を達成できましたが野球部のシーズンを最後まで完結できたことがなによりです。

シーズン半ばやる気が薄れバラバラに見えたチームが終盤にきて再度選手一人一人が野球への意義そして目標達成へ執着し、その意識を高められたことにより全てが回り始めたのだと思ってます。

(記事：Mitsuru Kudo, Keio Athletic Dept.)